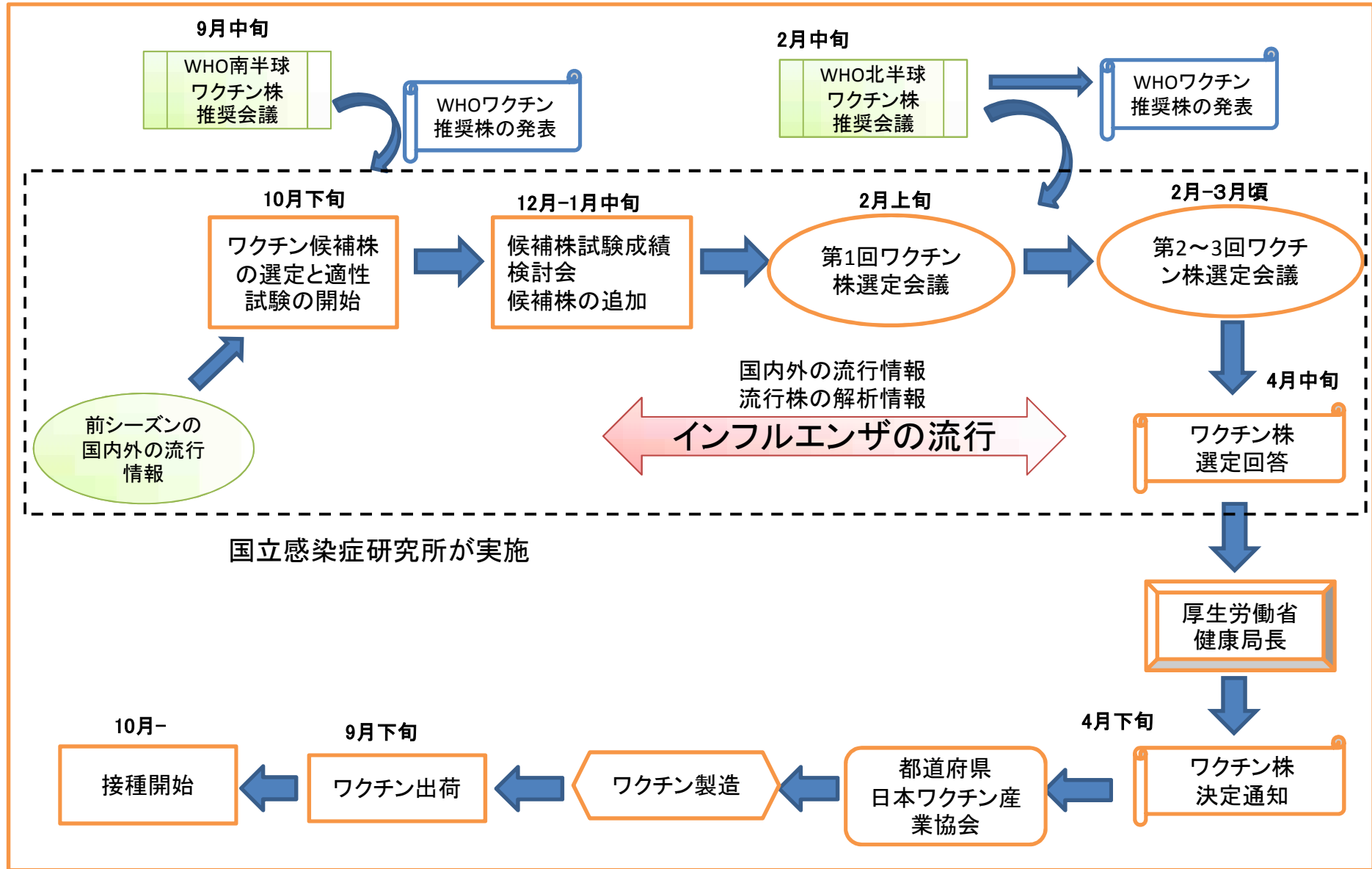


インフルエンザワクチン株とその選定プロセス



2014/15シーズンインフルエンザHAワクチン製造株について

1. WHOが推薦するワクチン製造株の構成

WHOは以下のインフルエンザウイルス株の流行を予測しており、ワクチン製造株として推奨している。

- (1) A/カリフォルニア/7/2009 (H1N1)pdm09類似株
- (2) A/テキサス/50/2012株 (H3N2) 類似株
- (3) B/マサチューセッツ/2/2012類似株

2. 我が国のワクチン製造株について

上記WHO勧告等を踏まえ、2014/15シーズンは以下の3株をワクチン製造株として選定した。

- (1) A/カリフォルニア/7/2009 (X-179A) (H1N1)pdm09
- (2) A/ニューヨーク/39/2012 (X-233A) (H3N2)
- (3) B/マサチューセッツ/2/2012(BX-51B)

※国立感染症研究所における検討の結果、

○A/H1N1 pdm09ウイルスの殆どは、ワクチン株A/カリフォルニア/7/2009類似株で、2009年以来抗原性が殆ど変化していない。また、A/カリフォルニア/7/2009ワクチン接種後のヒト血清は、最近の流行株とよく反応することなどから、A/カリフォルニア/7/2009(X-179A) (H1N1) pdm09 (2013/14シーズンと同じ)を選定した。

○A/H3N2の型については、卵馴化によりウイルスの抗原性が流行株に比べて、著しく異なる傾向を示してゐる。2013/14シーズンのワクチン株であるA/テキサス/50/2012 (X-223) (H3N2) の卵馴化による抗原性の変化は、幾分軽減されたものの期待したほどの改善は見られなかった。2014/15シーズンのワクチン株は、A/テキサス/50/2012株 (H3N2) 類似株であるワクチン製造候補株のうち、卵馴化しても抗原性の変化の程度が比較的小さいことや増殖性、タンパク収量などの製造効率を踏まえ、A/ニューヨーク/39/2012 (X-223A) (H3N2) が総合的に最も適切であると判断し、製造株として選定した。

○B型については、①国内外で山形系統が流行の主流であること、②国民の抗体保有状況調査では、山形系統に対する抗体保有レベルは、ビクトリア系統に対する抗体保有レベルより低いこと、③2013/14シーズンのB/マサチューセッツ/2/2012ワクチン (BX-51B) 接種後のヒト血清抗体は2013/14シーズンの流行株反応が良かったことなどから、山形系統のB/マサチューセッツ/2/2012(BX-51B) (2013/14シーズンと同じ) を製造株として選定した。